

## 第7回自動物流道路検討会 議事要旨

日時：令和6年12月19日（木）10：00～12：00

出席委員：羽藤英二委員長、淡路武彦委員、小幡純子委員、加藤弘貴委員、杉井淳一委員、高岡美佳委員、兵藤哲朗委員、北條英委員、味水佑毅委員、若林陽介委員

### 【議事】

- (1) 事業者へのヒアリング
- (2) マーケットサウンディングの実施結果について
- (3) マーケットサウンディングの実施について

### 【委員等からの主な意見】

#### ■事業スキームについて

- 民間企業での事業実施は大前提だが、リスク低減のために国からもある程度の関与は必要ではないか。利用料金の在り方も含め広く企業の意見を聞きながら具体的な制度設計について議論していくべき。
- 建設・維持・保有については国がコストを負担すべきではないかと思うが、運営について、国が需要等のリスク補填を行う場合には、他の運送事業との関係で民業圧迫となるのではないか。
- 自動物流道路についてグリーンフィールドということもあり不確定要素が多く、需要予測が難しいが、信頼性のある仕組みとしていくべき。
- 保有リスクについて、大規模なプロジェクトであり、公が保有することもありうるのではないか。
- 事業スキーム検討にあたって、物流の担い手不足が第一で、次にグリーン対応という事業のKGIがぶれないようにしないといけない。そのうえでビジネスとして成立するかという話だが、新たな需要が喚起できるのか、できないのか、パターンを分けたうえで採算性を検討していくことも必要ではないか。
- マーケットサウンディングでは、我々がこれまでの議論していなかった意見が出てきた印象。ルートについても東京一大阪だけでなく、首都圏、圏央道やるべきではという意見は興味深い。チルドのニーズや、輸送速度について時速30キロでは不十分という意見があるのがわかり、どの程度制約条件として考えていくのかは検討する必要がある。

#### ■技術アイデアのマーケットサウンディングについて

- 技術のマーケットサウンディングにおいて、メンテナンス、不測の事態のバックアップについて現在どの程度のことまでができるのか聞いていくべき。
- 貨物の高さや輸送機器の速度は、自動物流道路のキャパシティに影響していくため、キャパシティを上げるような技術についても積極的に聞いていくべき。
- 今回サウンディングの対象となっているシステムについては、単に需給のマッチングのみならず、運賃決済を自動化する等の様々な機能を持つシステムが必要なことにも留意すべき。

## ■その他

- 荷主にとっては、荷崩れ原因の特定は重要であり、一般に調査には時間を要するため、自動物流道路においても貨物の運搬状況を把握するための技術は重要である。
- 自動物流道路が運用開始した場合に、高速道路の渋滞が緩和すれば、逆にトラックによる高速道路走行の需要が増えるのではないかと。どのような事業スキームでやるとしても、自動物流道路の需要予測が重要となってくるのではないかと。

## 【ヒアリング事業者の主な発言内容】

- 自動物流道路構想の実現には、大規模な投資と相応のリスクが生じるため、民間企業のリスク許容値内に収める観点からは、「コンセッション方式」の採用が望ましい。
- 運送人のリスクと保険は表裏一体であり、運送人のリスクは事業範囲の影響を受ける。また、各荷受、引渡のポイントで書面等によるダメージチェックを実施し、責任を明確化すべき。
- 民間事業者の視点（必要な IRR（内部収益率）等の確保）、金融機関の視点（プロジェクトファイナンスの元利金返済が可能なキャッシュフローの確保）を考慮の上、官民のリスク（需要リスク、コストオーバーラン、タイムオーバーラン、不可抗力、法令変更等の各種リスク）分担を整理した、官民連携事業スキームとすることが必要。